

1. 特に効果的であり改善に資した事例

F. その他

①大学院生・研究者等の積極的な受入・派遣等

F. その他

①大学院生・研究者等の積極的な受入・派遣等

《人社系》

●神戸大学人文学研究科文化構造専攻

「古典力と対話力を核とする人文学教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・海外連携大学と共同実施することで大学院生の古典力と対話力のさらなる涵養を目指す場である「コロキウム」として、「海港都市国際学術シンポジウム」、「東アジア応用哲学・応用倫理学学会」、「若手人文学研究者の出会いの場」など、大学院生が海外で研究発表を行ったり、海外の研究者や大学院生と交流を持つ機会を数多く設けた。
- ・中国、台湾、香港、韓国などの連携大学から大学院生や若手研究者を招聘し、海港都市研究に関する研究交流会を行った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・海外での学会発表が上首尾に行われるよう、古典ゼミナールやフォーラムなどと連動して、参加大学院生が発表練習を行う機会を設けるなど、入念な準備を行った。
- ・海外派遣が単発的なものにならないために、本プログラムに参加した大学院生の研究成果の発表の場である『古典力・対話力論集』に発表論文を公刊する機会などを提供した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・本プログラムで海外に短期派遣され、研究発表を行うなどの経験を積んだ結果、若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム (ITP) 「東アジアの共生社会構築のための多極的教育研究プログラム」や「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」といった本研究科の他のプログラムを利用して海外へ長期留学する大学院生が増加した。

《医療系》

●東京医科歯科大学保健衛生学研究科総合保健看護学専攻

「看護学国際人育成教育プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

- ・協定大学等をはじめとする海外の大学・研究機関等への大学院生の派遣、研究者や教育者の受け入れを積極的に行った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

- ・欧米の大学のみならず、アジアの国々との相互交流を深められるように大学院生の派遣先や研究者の受け入れ先の大学等を選定した。大学院生の海外派遣の際は、各大学院生の研究や学習ニーズが達成できるよう、派遣先を選定した。

1. 特に効果的であり改善に資した事例

F. その他

①大学院生・研究者等の積極的な受入・派遣等

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

- ・欧米の大学のみならず、アジアの大学とも、研究や教育に関する連携を深めることができた。
- ・大学院生の学習効果が高まった。

●神戸大学保健学研究科保健学専攻

「アジアにおける双方向型保健学教育の実践」の事例

(具体的に何を実施したのか)

平成 20 年度からの 3 年間で、招聘教員は 27 名、招聘学生は 23 名であった。一方、派遣教員は 32 名、派遣学生は 46 名であった。プログラム指定の単位を取得・登録した日本人学生数は、平成 22 年度には 102 名に達した。招聘した教員や学生全員に対しては、教員の場合は最低 1 コマの講義、学生の場合はカントリーレポートの報告（集中講義最終日のグループディスカッション）を課し、ともに、帰国後は報告書の提出を義務付けた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

学生の安全を最優先し、派遣に際しては事前のオリエンテーション（約 1 時間）とビデオでの学習を義務づけた。その際、海外での不慮の事故に対応できる連絡表なども準備した。さらに海外からの招聘教員（本プログラムは研究者の交流ではなく、あくまでも教育プログラムであることを関係教員に徹底し、教員としての参加を期待した）や学生の世話は、事前に登録した日本人ボランティア学生に依頼した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

平成 22 年度をもってプログラムが終了した後も、海外の提携大学との交流は持続しており、今後も学生交流を続けることとなった。平成 23 年度にはタイのチェンマイ大学と部局間協定を締結し、今後インドネシアのガジャマダ大学とも部局間協定を締結予定である。